



発行：秋田県立聴覚支援学校内 きこえとことば支援センター

交流学級の授業においてこそ十分な配慮を

特別支援教育アドバイザー 佐藤 淳



この一年、最も強く思ったのがこのことです。

難聴学級の授業は、難聴の児童生徒にとって分かりやすいものです。それは、①静かな環境で、先生と近い距離で聞いたり話したりできる、②視覚的な手掛かりを多く用意してくれている、③理解度を確かめながら必要な手立てをとって授業を進めてくれる等々、十分な（必要な）配慮がなされているからです。しかし、難聴学級の授業時数よりも、交流学級の授業時数が多いのが実状です。

交流学級の授業は、難聴学級の授業のようにはいきません。それでも、難聴の児童生徒は、耳や目、頭をフル稼働させて、授業についていこう、理解しようと努力します。十分な（必要な）配慮があると、この負担は少なく、理解度も上がり、学ぶ喜びを味わえます。十分な（必要な）配慮がないと、負担過重で理解度の低下した状態になります。その状態が続くと、ついには疲労困憊し、理解することをあきらめてしまいます。先生方からは「意欲のない子」と評価され、登校を渋るようになってしまいます。

こんなことにならないようにするために私ができることは、交流学級の授業で行われている配慮の事例を収集し、提供することだと考えました。特別支援教育セミナーなどで訪問した際には、事情の許す範囲で交流学級の授業も見せていただき、事例を収集してきました。夏の研修会では、その一部を紹介させていただきました。今後も事例収集を続け、機会を捉えて紹介してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

一年のまとめ・新年度に向けて

年度末になり、そろそろ引継ぎ資料についても準備を始めているかと思います。今年度の取組について、本人や保護者、関係職員と振り返り、4月から順調なスタートが切れるようにしましょう。

関係職員 ⇄ 担任 ⇄ 本人 ⇄ 保護者

- ⇩ 難聴学級、交流学級で学習する教科の選定
- ⇩ 自立活動の時間設定
- ⇩ 補聴器等の自己管理(学校、家庭)
- ⇩ 座席、席替え
- ⇩ 交流学級での聞こえ(先生の話、友達の発表)
- ⇩ 校内放送やCD、DVD教材使用時の聞こえと理解
- ⇩ 難聴理解学習の計画
- ⇩ 交流学級等における補聴援助システム(ロジャー等)の使用、やり取りの工夫など



【引き継ぎ資料】 〈例〉

- ◇ 個別の支援計画 (合理的配慮の評価等)
- ◇ 個別の指導計画 (手立ての記入等)
- ◇ 最新のオーディオグラム
裸耳と補聴器等装用時の測定結果
- ◇ 補聴器等のデータ
- ◇ 諸検査資料
- ◇ 面談の記録
- ◇ 医療機関とのやり取りに関わる記録

就学や転入学を控えている学校についても、今年度中に、必要な情報を前籍校や保護者と確認するようにしましょう。「教室環境に必要なものを知りたい」「聞こえにくさや補聴器、支援の仕方等についての研修を行いたい」など、ご希望がありましたら、いつでもご連絡ください。

情報交換ルームを開催して ～初回 令和4年1月14日（金）Zoomで開催～

でんでんくん前号（NO.6）で、ご紹介したオンラインを活用した新しい取組の「情報交換ルーム」。初回は、小学校で難聴学級を担任しているお二人の先生が参加。和気あいあいのルームになりました。話題は『交流学級や集会での補聴援助システムロジャーの使い方』。Y先生の「教卓に置いて小グループ



モードで友達の発言もひろっている、スイッチ入切のサインを決めて授業中の児童の訴えに対応している。」などのお話を受け、K先生からは「小6男児なのでロジャーを使いたくないという訴えがあるが、保護者はしっかり聞き取るために使うよう本人に説明している。」などのお話があり、お互いの指導実践から具体的な使用例を出し合いました。情報交換は、聞き取りの確認の必要性、ことばを定着させる方法などにも及び、時間が足りなくなるほどでした。

「同じような使い方だと分かり安心した。」「学習した語句を定着させるためのプリントの具体例が参考になった。」との感想から、難聴児童を担任されている先生方にとって、他校の先生方と情報交換ができる場が重要であることを感じました。

次回は、2月18日（金）か25日（金）のどちらか、希望される先生方の多い日に実施予定です。
問い合わせは「きこえとことば支援センター」までお気軽にご連絡ください。

「先輩と語る会」を終えて（中学生の交流会）



令和3年12月10日（金）、本校会議室において「先輩と語る会」が開催されました。校外からは生徒と保護者、難聴学級担任1名の計3名の参加がありました。講師は、平成29年度に高等部専攻科情報デザイン科を修了した佐々木廉氏です。「株式会社ズキ部品秋田」に入社、自動二輪車のエンジンに使われる大切な部品の研磨作業を担当しています。専攻科では、デザインや制作を通じて、実際に製品を使っていただく方の立場になって、どうすればよりよく改善できるかを考えることの大切さを学んだそうです。このような姿勢が、現在のお仕事にも生かされていることを感じました。

講話の中で、学生と社会人の違いは「責任」をもつかどうかだと話されていました。学生のときの心構えとして、提出物の期限を守る、委員会や行事等で自分の役割を確実にこなすことが、責任感をもつことにつながるとアドバイスをいただきました。



〈生徒の感想〉

- ☆…仕事や宿題も責任のあることとして取り組んでいきたいと思った。
- ☆聞こえにくさを伝えることは大切だと改めて思った。
- ☆職場実習をして視野を広げることが大切だと学んだ。
- ☆任された仕事などを自分で責任をもって行動することについては、まだまだ私も努力が必要だと思った。
- ☆初のオンラインでの会だったが、聞き取りやすく分かりやすかった。

進路指導部よりお知らせ

豊田自動織機（愛知県）から会社見学会、就労体験の案内が来ています。聴覚障害のある高校1、2年生が対象です。県外製造業に興味のある方は下記の連絡先までお知らせください。



きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）【直通携帯電話】090-8784-6302
〒010-1409 秋田市南ヶ丘一丁目1番1号
【聴覚支援学校】TEL：018-889-8572 FAX：018-889-8575
E-mail：chokaku-s_shien@akita-pref.ed.jp